

活 用 技 術

平成 23 年度

8月下旬から出荷できる品質良好な黄肉もも新品種「つきかがみ」		
[要約] もも新品種「つきかがみ」は、「黄金桃」に続いて、8月下旬から9月上旬に収穫できる <u>豊産性</u> で <u>食味良好な晩生黄肉品種</u> である。		
農業総合研究所園芸研究センター 育種栽培科	連絡先	TEL 0254-27-5555 FAX 0254-27-2659

[背景・ねらい]

わが国におけるもも生食用品種は白肉種が中心であるが、近年は生食用黄肉種の需要が徐々に高まり、(独)果樹研究所では、消費者ニーズの多様化に因應べく、晩生で品質良好な黄肉もも新品種「つきかがみ」を育成した。そこで、本県における新品種の特性を把握し、新たな品種構成アイテムとして提案する。

[成果の内容・特徴]

1 育成経過

(独)農業・食品産業技術総合研究機構 果樹研究所育成。交配親は「筑波 105 号」×「筑波 115 号」で、系統適応性検定試験の系統名は筑波 123 号である。

2 樹性

樹姿はやや直立し、樹勢は強、花芽着生が多く花粉を有し、結実性良好で生理落果は少ない(表 1)。

3 生態特性

発芽期、展葉期、開花期、硬核期は、「黄金桃」よりやや早く、収穫期は 8 月下旬から 9 月上旬で、「つきあかり」「黄金桃」に続いて出荷できる晩生品種である(表 1)。

4 果実形質

果形は扁円～円で果肉色は黄色、紅色素は果肉内には無いが、核周囲に多い。果肉は軟らかく、肉質はち密、多汁で食味良好である。核は「黄金桃」と同様に、離核である(表 2)。

5 収量

樹冠の拡大とともに収量は順調に増加し、10 年生までの累積収量は、「黄金桃」を大きく上回る(表 3)。

6 果実品質

幼木時の果実重量はやや小さいが、樹齢を重ね、樹が落ち着くにつれて果実肥大は良好となる。果皮の着色は「黄金桃」よりやや少なく、糖度は「黄金桃」並みに高い(表 3、図 1)。

[成果の活用面・留意点]

- 1 現在、品種登録申請中であり、平成 23 年秋から苗木が流通する予定である。
- 2 試験供試樹の栽培は、白色一重袋の有袋で、反射マルチは使用していない。
- 3 通常の防除で特に問題となる病虫害発生は認められていない。

[具体的データ]

表 1 樹性及び生態 (2003年～2010年平均)

品種名	樹姿	樹勢	花芽着生程度	花粉	生理落果	発芽期	開花期			硬核期	収穫期	
							始	盛	終		始	終
つきかがみ	や直～中	強	多	有	少	3/30	4/17	4/21	4/26	6/14	8/28	9/04
つきあかり (対照品種)	直～や直	強	多	有	少	3/30	4/17	4/21	4/26	6/15	8/07	8/13
黄金桃 (対照品種)	直～や直	や強	や多	有	や少	3/31	4/18	4/22	4/27	6/16	8/21	8/28

表 2 果実形質 (3～10年生の平均値)

品種名	果形	果肉色	果肉内 紅色素	核周囲 紅色素	果肉 硬軟	肉質	果汁	核の 粘・離
つきかがみ	扁円～円	黄	無	多	軟	ち密	多	離
つきあかり (対照品種)	扁円～円	黄	少	微	軟	ち密	多	粘
黄金桃 (対照品種)	円～扁円	黄	少	少	軟	ち密	多	離

表 3 収量及び果実品質 (3～10年生の平均値)

品種名	3～10年生1樹 累積収量(kg)	玉揃い	平均果重(g)		着色*	果肉硬度 (kg/cm ²)	糖度 (brix)	酸味 (pH)	日持ち (日)
			(3～10年生樹平均値)	(6～10年生樹平均値)					
つきかがみ	138.0	良	228.8	256.9	3.2	3.0	14.1	4.3	9.7
つきあかり (対照品種)	129.8	良	204.2	225.5	3.1	2.7	15.6	4.6	9.3
黄金桃 (対照品種)	71.9	良	255.9	276.9	3.8	3.1	14.1	4.3	8.9

*果皮の着色面積割合：1:10%、2:30%、3:50%、4:70%、5:90%以上



図 1 「つきかがみ」の結実状況

[その他]

研究課題名：にいがた産果実の生産安定とブランド確立支援技術の開発

予算区分：県単経常

研究期間：平成14～22年度

発表論文等：なし